

(資料8)

2017年度  
日本内部統制研究学会  
アンケート結果報告

2018年10月5日

# 2017年度 日本内部統制研究学会アンケートについて

## 目的

内部統制研究学会理事会において、学会の活性化のための取り組みについて検討するにあたり、会員からのご意見を今後の取り組みに反映する目的にて実施。

## 調査期間

2017年10月—12月

## 調査対象

2017年内部統制研究学会大会参加者

## 調査方法

Webアンケートにて実施

## 回収状況

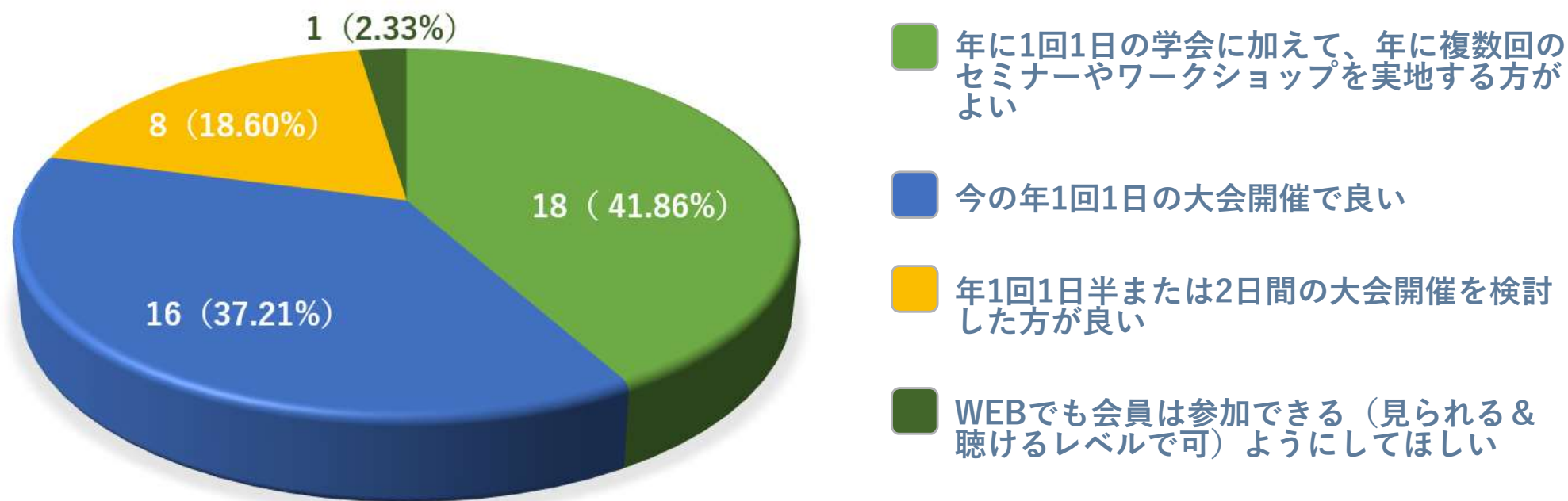
大会参加者 **110人**のうち40名が回答 回答率 36.36%

---

# 内部統制研究学会大会について

# 2017年度日本内部統制研究学会アンケート結果

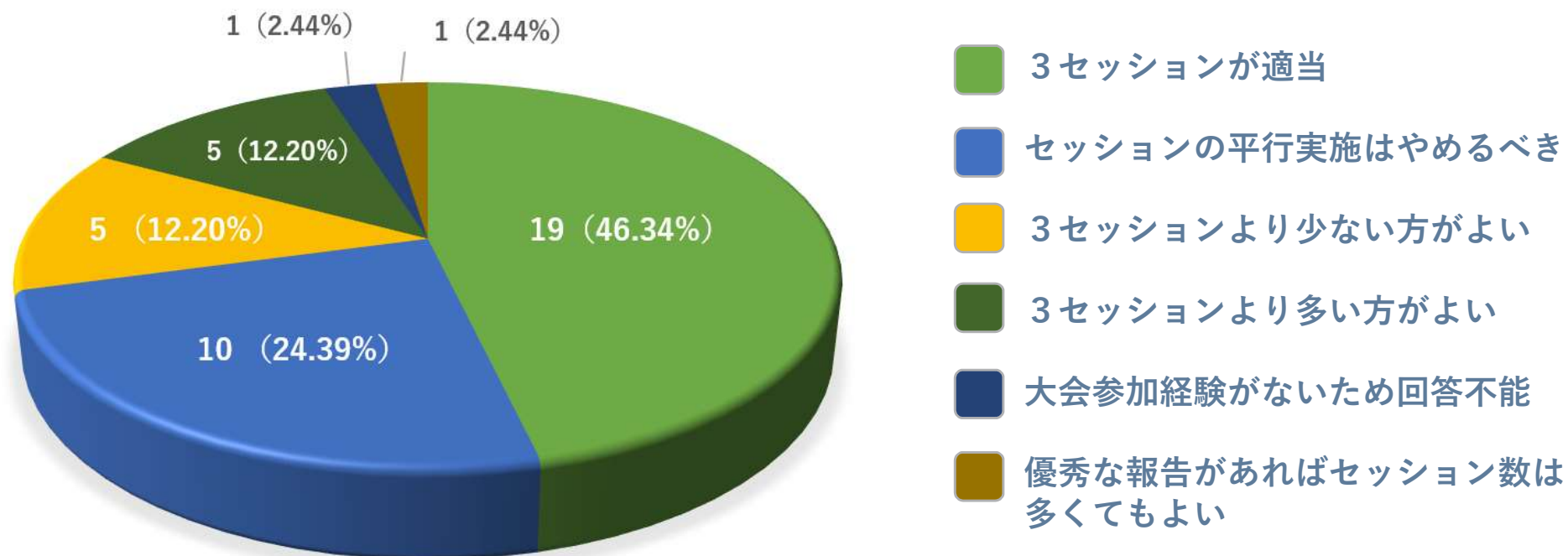
## 【質問1】 大会等の活動頻度について



\*現在の年1回1日開催希望者の数と僅差ではあるが、年に1回1日の学会に加えて、年に複数回セミナー・ワークショップの実施希望者の割合が多い。

# 2017年度日本内部統制研究学会アンケート結果

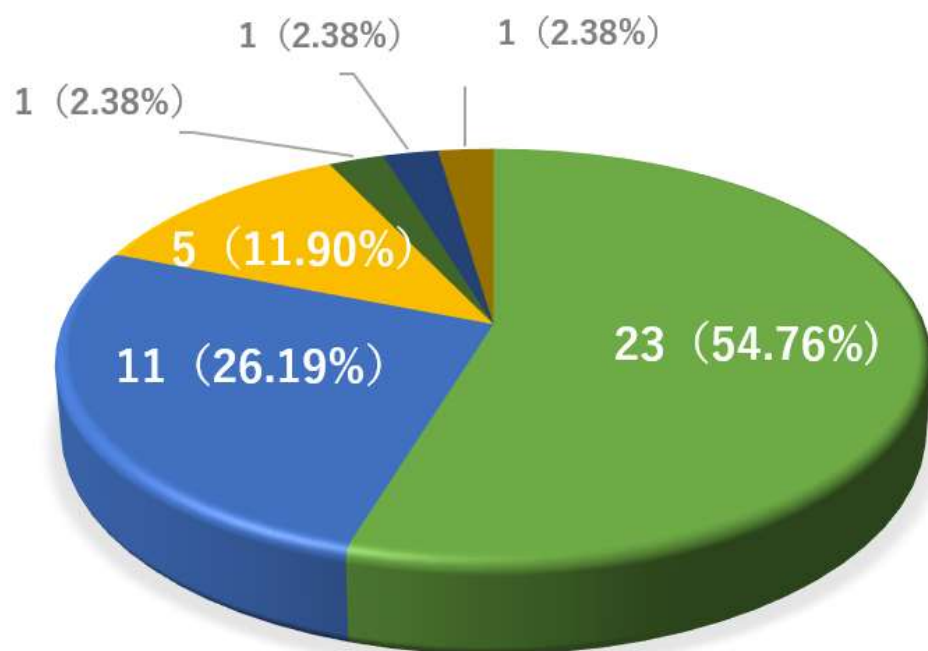
## 【質問4】 自由論題報告セッションの数について



\*3セッションが適当という意見が半数弱を占めているが、セッションの平行実施はやめるべきとの意見が24%を占めていることも留意する必要がある。

# 2017年度日本内部統制研究学会アンケート結果

## 【質問5】 研究部会の報告・質疑応答時間(合計60分)について

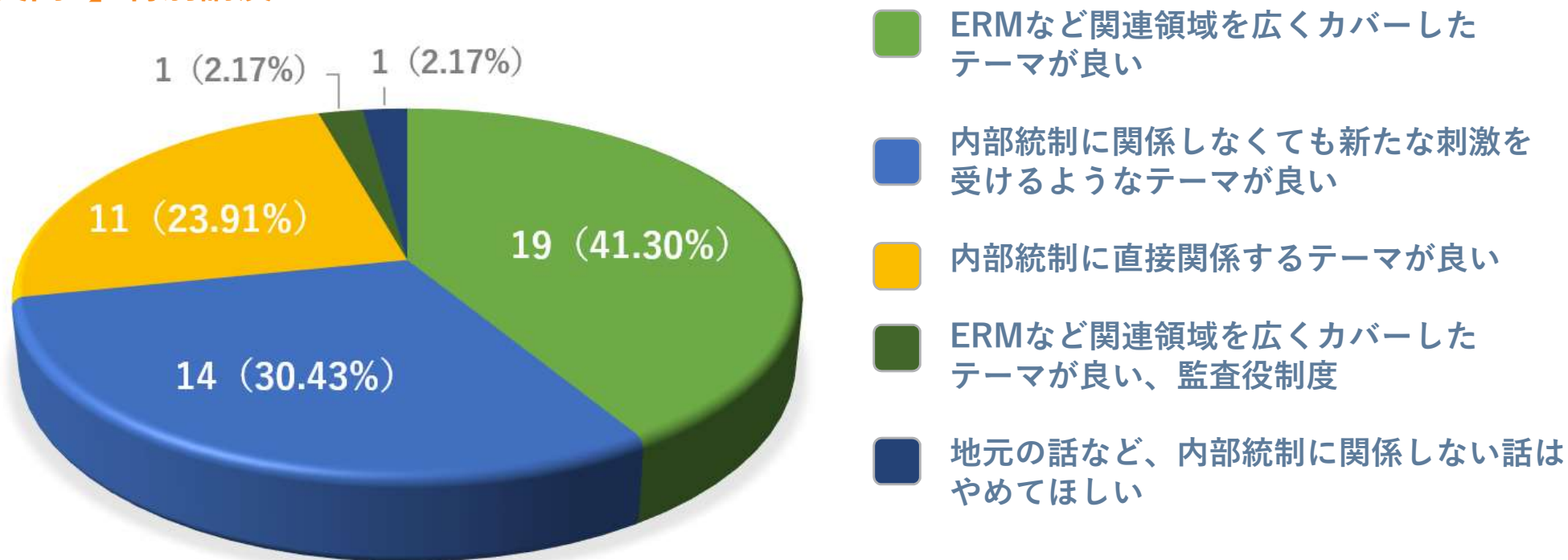


- 報告、質疑応答とも、適当
- 報告、質疑応答とも、もっと長い方が良い
- 報告をもっと短くし、質疑応答が長い方が良い
- 研究部会の報告内容によって臨機応変に設定しても良いと思う
- 実務家個人の発表の中には単なる経験談のような内容のものがある。学会にはふさわしくない。事前審査が必要
- 大会参加経験がないため回答不能

\* 計60分の「報告、質疑応答とも、適当」という意見が半数以上を占め、30%弱が「報告、質疑応答とも、もっと長い方が良い」という結果になった。

# 2017年度日本内部統制研究学会アンケート結果

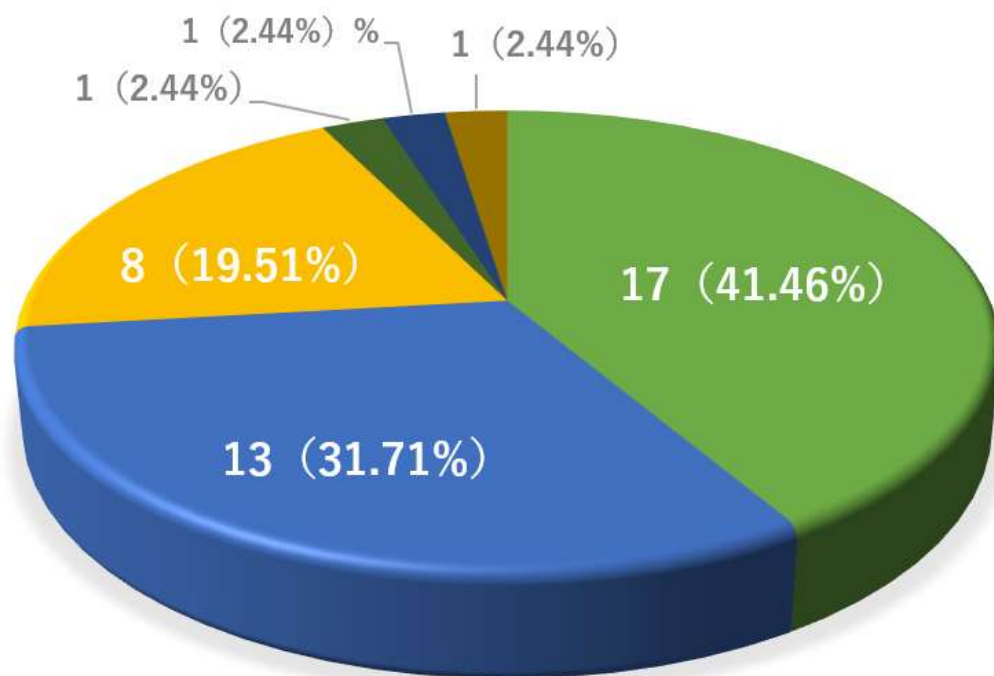
## 【質問6】 特別講演について



\* 「ERMなど関連領域を広くカバーしたテーマが良い」と「内部統制に関係しなくても新たな刺激を受けられるようなテーマが良い」という意見が、全体の7割以上を占めた。

# 2017年度日本内部統制研究学会アンケート結果

## 【質問7】 統一論題の進め方について



- 現在の形式を変更しない方が良い
- キーノートスピーチを1つ設定し、それについて数名で討論する形式が良い
- 大会プログラムに論点を予め提示し、それについて数名で討論する形式が良い
- 各報告を20分以内として、その分討論時間を増やす
- 大会参加経験がないため回答不能
- 報告をもう少し長くした方が良いと思う

\* 「現在の形式を変更しない方が良い」と「キーノートスピーチを1つ設定し、それについて数名で討論する形式が良い」の意見が全体の7割以上を占めた。



# 2017年度日本内部統制研究学会アンケート結果

## 【質問8】 今後取り上げたい統一論議テーマや、大会プログラム策定に向けての提案(1/2)

### 内部統制の在り方

- ①COSO-ERM、内部統制報告制度の現状把握と課題、不正会計事例における内部統制の問題と強化策、学会として内部統制のあり方について情報発信できるようにしたい。
- ②内部統制報告制度の再検討、三様監査の連携の深化、内部統制と経営倫理、監査役と内部監査部門の経営からの独立性をいかに確保するか
- ③不祥事再発防止、調査委員会の運営、グループ会社のリスク管理
- ④経営における内部統制の活用事例(事前に役員の先生方が厳しくチェック頂くことが前提)
- ⑤実効性あるJ-SOX制度の運用のための改革
- ⑥品質に関する不正防止のために内部統制はどうあるべきか
- ⑦経営者の姿勢が内部統制に与える影響、または経営者に内部統制の有益性を認識させた事例、など。有効でない内部統制システムの導入が与える影響、など。

# 2017年度日本内部統制研究学会アンケート結果

## 【質問8】 今後取り上げたい統一論議テーマや、大会プログラム策定に向けての提案(2/2)

### 議題の多様化

- ①国、地方自治体、学校法人などの非営利の組織についても内部統制についてテーマとして採用いただけると勉強になります。
- ②内部統制失敗例の事例分析（上場企業等、公開された報告書に基づくもの）
- ③内部統制とAIについての関連、今後の動向
- ④AI利用環境化における内部統制
- ⑤ESG、サステナブルな事業活動のためのコーポレートガバナンスのあり方等。昨今の企業不祥事に関連した内部統制上のテーマ等はいかがでしょうか。
- ⑥コーポレートガバナンスと内部統制

### 学会の在り方

- ①些末な話ではあるが、小生は首都圏在住で、年次総会が首都圏以外の地区で開催される場合、朝晩の時間に余裕がないと2泊しなければ全てのプログラムに参加できない場合がある。この意味からも、単に年次大会の時間を増やすという理由以外にも、**初日の開始時間と2日目の終了時間にご配慮**を頂けるとありがたい。
- ②統一論題報告・討論については、毎年同じスタイルで行う必要はなく、**テーマや登壇者によって、さまざまスタイルがあってもよい**と思います。
- ③また大会実施に際して、現役の実務方としては首都圏以外での開催（特に宿泊を伴うような遠方での開催）の場合は参加が困難なため、**可能な限り首都圏内での開催**とされてはいかがでしょうか。

# 内部統制研究学会の会員メリット向上 および会員増加の取り組みについて

# 2017年度日本内部統制研究学会アンケート結果

## 【質問2】 内部統制研究学会の会員となるメリットを感じる取り組みについての意見・提案(1/3)

### メリットについての意見

- ①研究者、弁護士、公認会計士から企業実務家まで**多様な立場の方々との交流は有益**である。
- ②大会に参加すると**日頃聞けない情報を得ることができ大変勉強**になります。この場を借りて大会運営を支えていただいている委員や学会関係者の方々に感謝申し上げます
- ③会員登録をして年に一度の**大会で系統だった報告を聞くことで、研究活動を継続する意欲につながっており**、また大学で総合講座の講師を務める時にも自信につながっている。
- ④**内部統制についての最近の情報入手**ができる。内部統制だけでなく周辺分野の知見が深まる。
- ⑤今回の**COSOフレームワークの動向等最新の研究成果を学ぶ**ことができ、且つ**一般の実務家の研究内容を知ることができる**。
- ⑥理論的な面だけではなく、**実務家の視点も含めて情報を入手**することができる
- ⑦会員となっている**内部統制研究学会自体の知名度・発信力が高まれば、会員となるメリットを感じる**かもしれません。(私の勝手な感想でございますが、現在は各々の先生の力量が高く、誤解を恐れず、例えるとオールスターのような団体だと思います。)

# 2017年度日本内部統制研究学会アンケート結果

## 【質問2】 内部統制研究学会の会員となるメリットを感じる取り組みについての意見・提案(2/3)

### メリットを感じる取り組みへの提言 論点等

- ①学会で実務家の話が聞けることは良いと思いますが、**専門性の高い方で、エビデンスに基づいた報告が必要**だと思います。特にありません。
- ②学会による**旬なテーマについての調査**と**会員が利用できる調査データの蓄積、充実の向上**
- ③**大学の研究者や一部の固定的メンバーによる発表に偏り、新鮮味がないとともに最近のガバナンスやグループ会社管理、不祥事対応などの実務課題に資するものが少なくなった。**
- ⑤内部統制も監査と同様で、実務家はもっと理論的バックボーンを持つべきだし、学者はもっと実務を知るべきである。この観点から、**実務家及び学者の双方にメリットのあるような論点の討議が求められる**のでは。
- ⑥学会は、内部統制の**アカデミックな面と実務面での課題を知る**ことが出来るよい機会だと思うが、そのような場を増やすと良いのではないか。やはり、研究だけでもだめだし、理論が伴わない実務でもだめだろうし、その**接点を見つける取組が欲しい。**

# 2017年度日本内部統制研究学会アンケート結果

## 【質問2】 内部統制研究学会の会員となるメリットを感じる取り組みについての意見・提案(3/3)

### メリットを感じる取り組みの提案 セミナーの開催

- ①全国の**主要都市でセミナーやワークショップを開催**してほしいです。広く内部統制に関わる者の教育の場を提供する。
- ②**会員向けに以下のようなセミナー・研修を実施**する(COSO ERM自体の詳細解説セミナーや理解のための研修の実施、COSOおよびCOSO ERM活用企業による事例紹介セミナー・情報交換会)
- ③セミナー、ワークショップ、特別講演会／パネルなどの**イベントへの無償参加大会を通じて、内部統制に関するさまざまな切り口からする報告**（法律論等）を聞ける。
- ④最近是个別のセミナー等が開催されておきませんので、出来ましたら、**個別のワーキンググループ（WG）等の発表の機会**を設けてはいかかかと思ひます。メンバーについてはJICRA内で広く募集をかけ、任意で集まったWGのメンバーにて自由に研究を行い、成果物が完成した段階でセミナー等を通じ発表する、というのはいかがでしょうか。（月1回程度メンバーが集まれる会議室をJICRAにて確保できれば良いかと思ひます。）
- ⑤**学術的な研究と実務の融合事例につき、ワークショップ等で紹介**していただきたい。
- ⑥私は東京在住ですが、今年は業務の都合でどうしても愛知まで行く時間がとれませんでした。**学会での発表、セミナー等のビデオをWebでライブまたは録画で見れたら有り難かったです**

# 2017年度日本内部統制研究学会アンケート結果

## 【質問3】 その他、内部統制研究学会の会員を増やすための取り組みについての意見・提案(1/4)

### 資格

①日本にCOSOを普及させるための認定資格制度の実施

### セミナーの開催

①セミナーやワークショップに、企業の監査役、内部監査担当者を招待するのは、いかがでしょうか？

②無料でのセミナーやワークショップを開催して集客し、その時に、入会の案内をする。シンポジウム等の大会以外の活動の活性化が必要と思います。

③日本監査研究学会等他の学会と比較すると、一般の研究者の発表内容の水準が低いのではと懸念しております。もう少し大学の先生方の研究報告やグローバルでの最先端の研究に関するシンポジウムを増やしてはどうかと思います。

④実務家が多い学会なので、知識・経験レベルを共有するために、勉強会活動（一種の教育活動）をしたらどうか。勉強会の発表会をしてもよいが、学会とは別枠で行うべき。

⑤こうした学者、関係職業家、学生に加えて、現役実務家が発表をする学会は価値があると思う。学会のビジョン、活動を広く知らしめる為には参加者をオープンに募集するセミナー、ワークショップ等増やし、広報を強化したほうが良いと思う。

# 2017年度日本内部統制研究学会アンケート結果

## 【質問3】 その他、内部統制研究学会の会員を増やすための取り組みについての意見・提案(2/4)

### 外部との連携

- ①企業関係者や社外役員経験者の研究発表を増やすべきである。閉鎖的でお友達グループの理事会は半数程度改選すべきである。
- ②監査役や内部監査部門などの企業実務家への働きかけを強めるべきである。
- ③JSOXを超えた内部統制全般を研究対象とし、昨今、発覚している様々な不正を防止・発見する上で、当学会の活動が役立つことをアピールし、企業からの会員を増やせないだろうか。
- ④前述の通り、実務家はもっと理論的バックボーンを持つべきである。この観点から、主要企業のJ-SOXの担当責任者に対し積極的にお声がけするのはどうか。

### 会員制度

- ①学生について、準会員のような制度で受け入れるようなものを設けてはどうか。
- ②会費を安価にする、会員でないとアクセスできない情報（マニュアルなど）があり、会員になったメリットを感じることができると良いと思います。
- ③会員を増やすことだけに主眼をおけば、年次大会の参加者のうち、半数近くが非会員ということであるので、その非会員参加者にそのまま会員になってもらうような手続きをつくってみてはいかがでしょうか？例えば、申込時にチェックマークをつける、推薦人制度の撤廃など。



# 2017年度日本内部統制研究学会アンケート結果

## 【質問3】 その他、内部統制研究学会の会員を増やすための取り組みについての意見・提案(3/4)

### 学会の知名度

- ①学会の注目度を引き上げることに尽きると思う。
- ②現状、実務者の間では認知度が低いことから、例えば、**JICRAのメールアドレス（会員氏名@jicra.prg）を会員に付与し、宣伝効果を高める**というのはいかがでしょうか。米国の電気電子学会（IEEEアイ・トリプル・イー）は、会員にメールアドレスを付与しており、会社の名刺や社内の電話帳に掲載する等されている方も見られますので、会員獲得に貢献しているのではないかと思います。
- ③**セミナー等のイベントの開催や出版活動による認知度の向上**。昨今の財務・非財務の多発が耳目を集めていることを活用し、内部統制の重要性を企業経営者等に訴えていきたい。また、**学会の活動をメディア等に取り上げてもらう**など、認知度を高める活動が重要と考える。
- ④**上場企業の財務、経理、内部監査担当者への積極的なPR**が必要と思います。

### Web活用

- ①**ウェブを利用したフォーラムを設けては**いかがでしょうか？協会が管理し、会員だけが発言可能なFacebook等、SNSの利用も考えられると思います。

# 2017年度日本内部統制研究学会アンケート結果

## 【質問3】 その他、内部統制研究学会の会員を増やすための取り組みについての意見・提案(4/4)

### その他

①単純に「学会会員数を増やす」こと＝「数を増やす」ということに価値を感じていません。**会員数が少ない学会でも会員がアクティブに活動されていればいい学会**だと考えております。そのうえで、「**大会の内容の質的向上**」や「**学会会員相互の議論の質**」が大切かと考えております。では、「お前はどうか？」と聞かれるとお恥ずかしい限りです。ただ、内部統制研究学会会員としてできることを探して日々やるように心がけております。

私のようなぶんざいで甚だ僭越ですが、次のようなことを考えております。学会会員の中でもいろいろ工夫をされている方も多いかと思います。「自由論題報告に出すにはちょっとハードルが高い」と躊躇されるケースもあるかもしれません。小さなことでも、必ずしも研究水準が高くなくても「(内部統制に関する)工夫」という目線での情報があるような気がしていて、もったいないような気がしています。

方法としてメルマガもよくありますが、マンネリ化しているものも見受けられます。何かいい方法がないかと日々考えているのが正直なところです。

# 2017年度日本内部統制研究学会アンケート結果

## 今後の方向性 まとめ

アンケートの結果をうけて、

学会会員メリット向上の取り組みについて、下記の検討が期待される。

- 年に1回1日の学会に加えて、年に複数回の会員向けセミナー・ワークショップの実施。
- 旬なテーマについての調査と、会員が利用できる調査データの蓄積、充実の向上
- 実務家及び学者の双方にメリットのあるような論点の討議
  - 内部統制のアカデミックな面と実務面での接点
  - 最近のガバナンスやグループ会社管理、不祥事対応などの実務課題に資するもの

学会の会員を増やすための取り組みについて、下記の検討が期待される。

- 無料でのセミナーやワークショップを開催して集客し入会の案内
- 知識・経験レベルを共有するための勉強会活動（学会とは別枠）
- 企業実務家への働きかけ
- ウェブを利用したフォーラム
- COSOを普及させるための認定資格制度
- 会員制度の見直し

アンケートにご協力いただいた会員のみなさま、  
ご協力ありがとうございました。

引き続き内部統制研究学会の発展にご協力ください。

